

(2)その他,特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果,世界的位置付け( ISI citation など)など。\* ISI データのない場合は,可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

分野	取組と成果、世界的位置づけ	18年度の状況
特筆すべき教育活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.</li> <li>2.</li> </ol>	
特筆すべき研究活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全国共同利用研究施設として大規模科学計算システムを学内外の研究者に提供し、日本の学術情報基盤整備に多大な貢献をすると共に、教員・技術系職員・システム開発者からなる高速化支援体制を構築し、利用者プログラムの高速化を通して、大規模/高性能シミュレーション技術の社会への還元を行っている。また、7つの基盤センター群と共同で、グリッド計算基盤や大学間相互認証基盤の開発といった次世代情報基盤に関する研究開発プロジェクトに取り組んでいる。これらの取り組みに対して、文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会から、高く評価された。</li> <li>2. 大学や企業におけるネットワーク利用について、セキュリティと情報倫理の規定や制度に関する問題が重要になっている。最近の状況として、個人情報保護法の施行や政府機関統一基準の制定があり、セキュリティ水準の向上も求められ、法人化後の国立大学においては、情報システムの運用や情報セキュリティの確保を実施する組織と予算について、全学的方針と新しい制度の構築が新しい課題として加わった。このような社会情勢の変化を反映させて、高等教育機関における情報セキュリティポリシーのサンプル規程集を策定し、国立大学等へ参照可能な資料として提供するために、「国立大学法人等における情報セキュリティポリシー策定作業部会」に参画し、「高等教育機関の情報セキュリティ対策のためのサンプル規程集」の策定において中心的な役割を果たした。</li> <li>3. 安全・安心なキャンパスユビキタスネットワークを実現する大学間無線 LAN ローミングの方式の研究開発として、国立情報学研究所ネットワーク運営・連携本部認証作業部会 eduroam グループ(代表を兼ねる)と協同しつつ、国際的な eduroam の日本における導入(eduroam JP)と、大学間電子認証連携に基づく方式の研究開発を行っている。日本における接続方式の検討と運用を実施し、接続の実現を果たして、成果を他大学等へ啓発している。日本の大学における新しい情報環境基盤の発展を担うための全国共同利用機関として重要な取り組みであり、また、実際に運用を実現している。</li> <li>4. 先端のエージェント技術に関する研究に取り組むと共に、総務省 SCOPE 受託研究プロジェクト(健康福祉のための先進的エージェントネットワークに関する研究)等におけるエージェント応用に関する研究開発を推進し、当該技術の発展と普及・啓発に貢献した。</li> </ol>	<p>国立情報学研究所の情報セキュリティポリシー策定作業部会の委員・主査と電子情報通信学会 ネットワーク運用ガイドライン検討ワーキンググループ主査を務めた。その策定検討の成果として、大学、高専、大学共同利用機関等が参照できる資料として「高等教育機関の情報セキュリティ対策のためのサンプル規程集」(H18.2)を発行した。その成果の普及のため、文部科学省「情報セキュリティセミナー」(H18.8.30)など3件の依頼講演を行った。</p> <p>18年8月に東北大学が日本で初めて eduroam 接続を導入し、以後5大学・機関の接続を支援した。</p> <p>プレスリリース(2月21日,翌日報道数件)「東北大と国情報研が国際的な大学間無線ネットワーク相互利用を開始 -- 訪問先の大学でネット利用が可能に・他大学へ普及推進」</p>

<p><b>特筆すべき社会貢献活動</b></p>	<p>1. 東北学術研究インターネットコミュニティ(TOPIC)は、東北地区において学術研究・教育活動を支援するコンピュータネットワーク環境の発展に貢献するための組織である。TOPIC事務局スタッフや技術部幹事として、積極的に東北地区のネットワークの発展に貢献している。</p> <p>2. 一般市民と東北大学の研究者とが科学技術について語り合う東北大学サイエンスカフェは、平成 17 年から始まり、月 1 回のペースで開催されている。毎回 100 人程度の参加者があり、大学全体の社会貢献活動として最も代表的な活動のひとつであることが知られている。情報シナジーセンターでは、ワーキンググループメンバーおよび全体を統括するコーディネータとして、この活動を主体的にサポートし、企画・広報・運営の中心的な役割を果たしている。</p> <p>3. 東北大学サイエンスカフェを発展させるため、市民や高校生への知識普及教育の方法を開拓した。ブロードバンドネットワークを用いた地域内・地域間情報発信・配信・流通のために、サイエンスカフェの映像を地域公共施設や市内および遠隔地の教育機関などへ送る双方向映像伝送による多点間映像交換などの技術を研究開発し運用した。</p> <p>4. 平成 14 年度から、情報シナジーセンターとして、仙台市の中学生を対象とした「中学生のためのコンピュータグラフィクス講座」を企画・運営している。この活動は、生徒の理科離れや数学離れに対処し、簡単な 3 次元 CG ゲームのプログラミングを通じて情報工学に対する興味喚起を促すことを目的としたものである。</p> <p>5. 宮城県先端的生活支援機器開発連携協議会委員として、宮城県地域結集型研究事業におけるフェーズ III の研究推進と事業化に関する報告および助言を行った。</p>	<p>18 年度 1 月から東北大学サイエンスカフェ・コーディネータの活動を開始し、講師との連絡調整・会場のアレンジ・広報活動を行った。</p> <p>18 年度にネットワーク型サイエンスカフェの展開を、遠隔型と近郊型の 2 通りで実施した。世界的にも先駆的な取り組みであり、科学技術振興機構日本科学未来館の依頼講演「東北大学サイエンスカフェ事例報告」(H18.11.25)を行った。</p> <p>平成 18 年 12 月に第 6 回の「中学生のためのコンピュータグラフィクス講座」を実施した。</p> <p>宮城県地域結集型研究事業におけるフェーズ III の評価結果が出され、他と合わせた 4 県の中で総合的に高い評価を受けた。</p>
---------------------------	--	---